

1. 事業内容

高齢化社会となってきた中、高齢者（高齢夫婦）世帯のみの個人宅において、高齢者によるスケジュール管理や体調管理が困難となっており、被介護者や介護者の介護疲れが発生しており、余分な介護費用、病院費用がかかっていると想定される。また、同時に少子化も進む中、その子や孫が別居している場合、遠方からの面倒や管理、介護が困難であり、負担となっている。更には病院から処方された薬を高齢者が飲み忘れ、あるいは飲まずにいることが見過ごされて、高齢者自身の体調管理ができなくなるだけでなく、無駄な薬を追加処方することとなり、国全体としての医療費逼迫の一因となっている。病院（医者）の機能としては診察し、薬を処方するだけに留まり、薬を服薬しているかどうかまでは管理、監視していない点にミスマッチが生じている。

そこで、音声認識及び音声入力、ディスプレイ表示、生成AI提案、生成AI時間管理、生成AI運動監視、生成AIヘルスケア管理によるノーハンド介護システム及びノーハンドスケジュール管理システムを事業として提案する。詳細は以降に述べる。

このシステムにより、高齢者であっても話しかけるだけでスケジュール管理や体調管理が可能となるし、その他の家族も別居していてもスケジュール管理や体調監視などが可能となり、介護負担の低減が図れる。

介護用途だけでなく、健常者の普段の生活や各種事業においても、ノーハンドでのスケジュール管理等ができることにより、PCやタブレットなどへの入力作業などの煩わしい手間が省けることになり、生産性の向上に寄与することができる。初期はデフォルトのシステムでの開発販売を展開し、次にオーダーメイドのシステム開発販売を展開する。

本事業は、このシステムの構築、販売、アフターフォローをひとつの枠組みとして社会へ提供するものであり、日本国だけでなく、中国やタイ、欧米などの高齢化国や先進諸外国へも展開するものである。この発想自体は単純であり誰でも模倣可能な内容であるので、事業展開は迅速にする必要がある。

2. 事業ターゲット

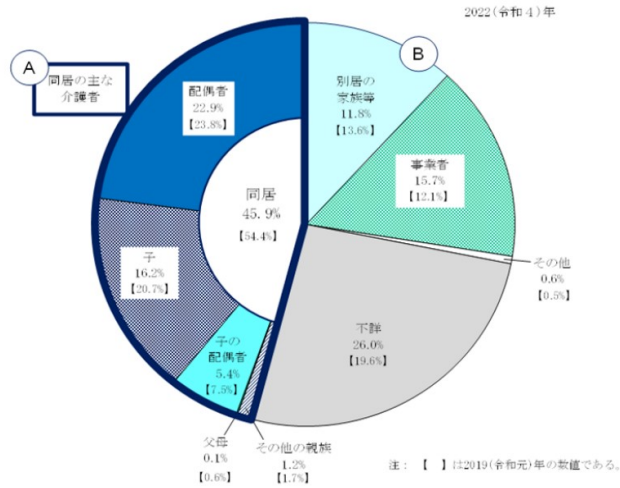
<2022（令和4）年世帯構造>
出典 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/index.html>
→リンク「調査の概要」（PDF）
ファイル「250330_2022（令和4）年国民生活基礎調査の概況（統計表）」参照



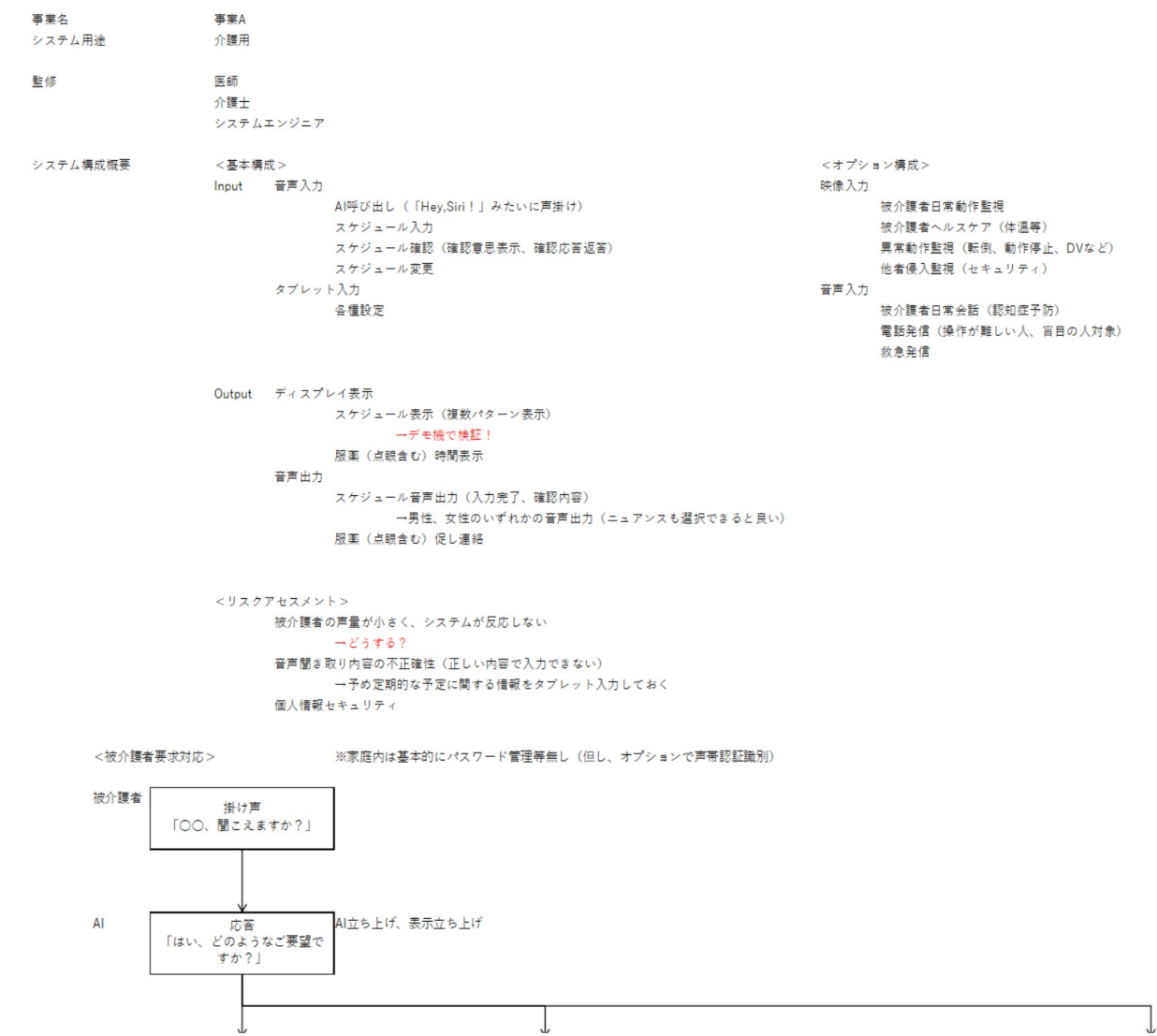
▽ファイル「250330_2022（令和4）年国民生活基礎調査の概況（世帯に関する図表）」参照

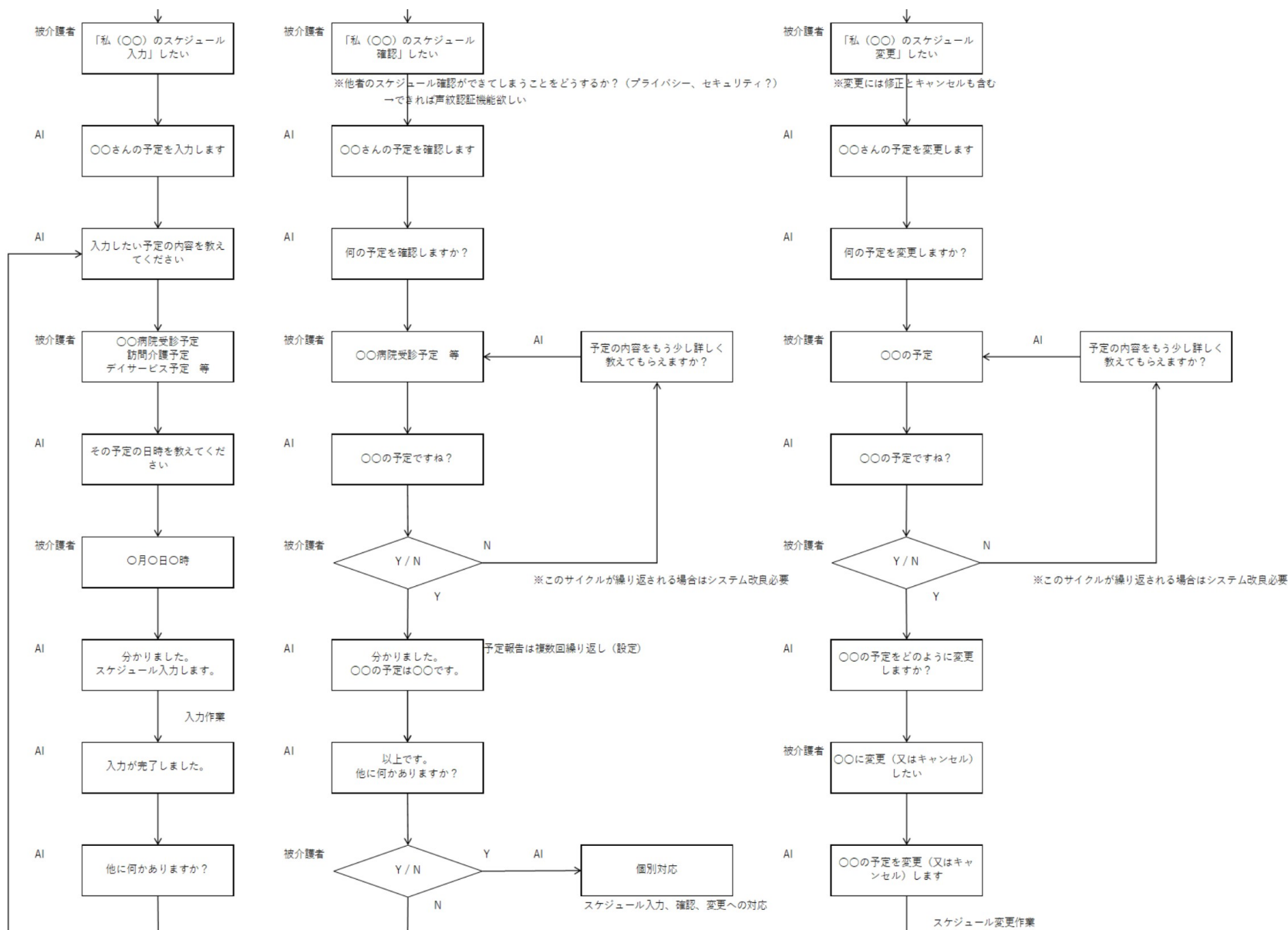
	単独世帯	夫婦のみの世帯	親と未婚の子のみの世帯	三世帯世帯	その他世帯	小計確認
65歳以上の者のいる世帯の世帯構造	8,730	8,821	5,514	1,947	2,463	27,475
総世帯数比率	48.9	66.2	31.2	93.3	73.5	
↓						
別居の子世帯	5,799	610				
65歳以上世帯比率	66	7				
総世帯数比率	10.7	1.1				
↑想定						
別居の家族による介護率	11.8					
同居配偶者介護率（対総世帯）	22.9					
夫婦世帯配偶者介護率		93				
世帯数		8,211				
当事業ターゲット世帯限界総数	14,620	←限界シェア100%				

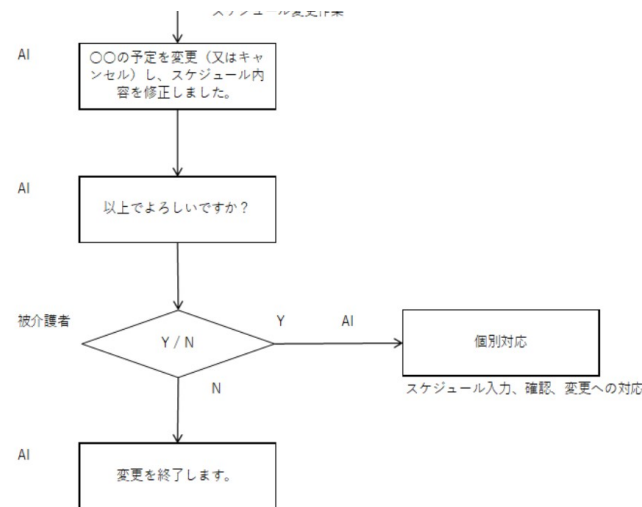
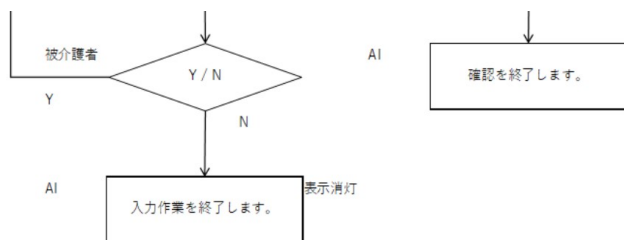
ファイル「250330_2022（令和4）年国民生活基礎調査の概況（介護関連）」参照
図25 「要介護者等」からみた「主な介護者」の統制別構成割合



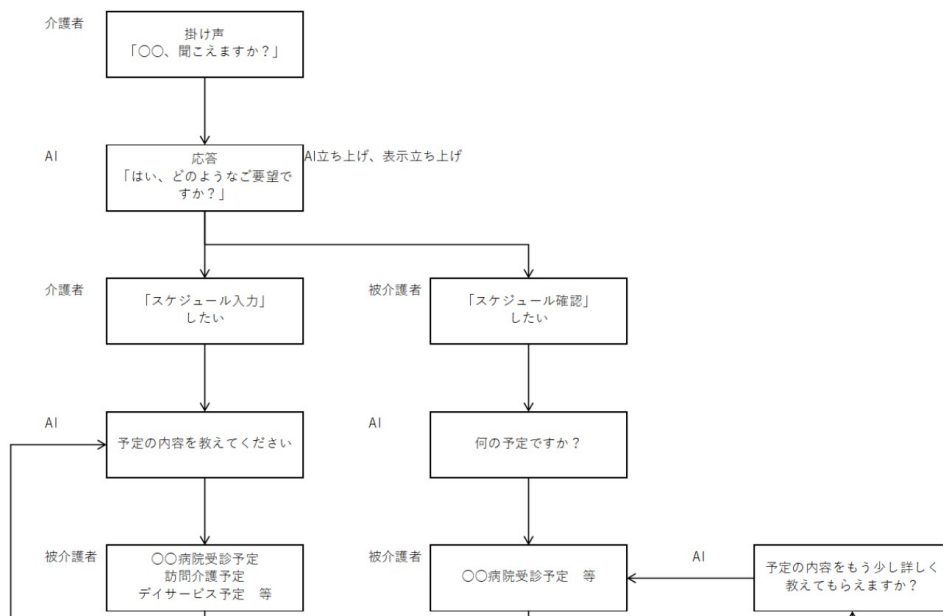
3. システム内容

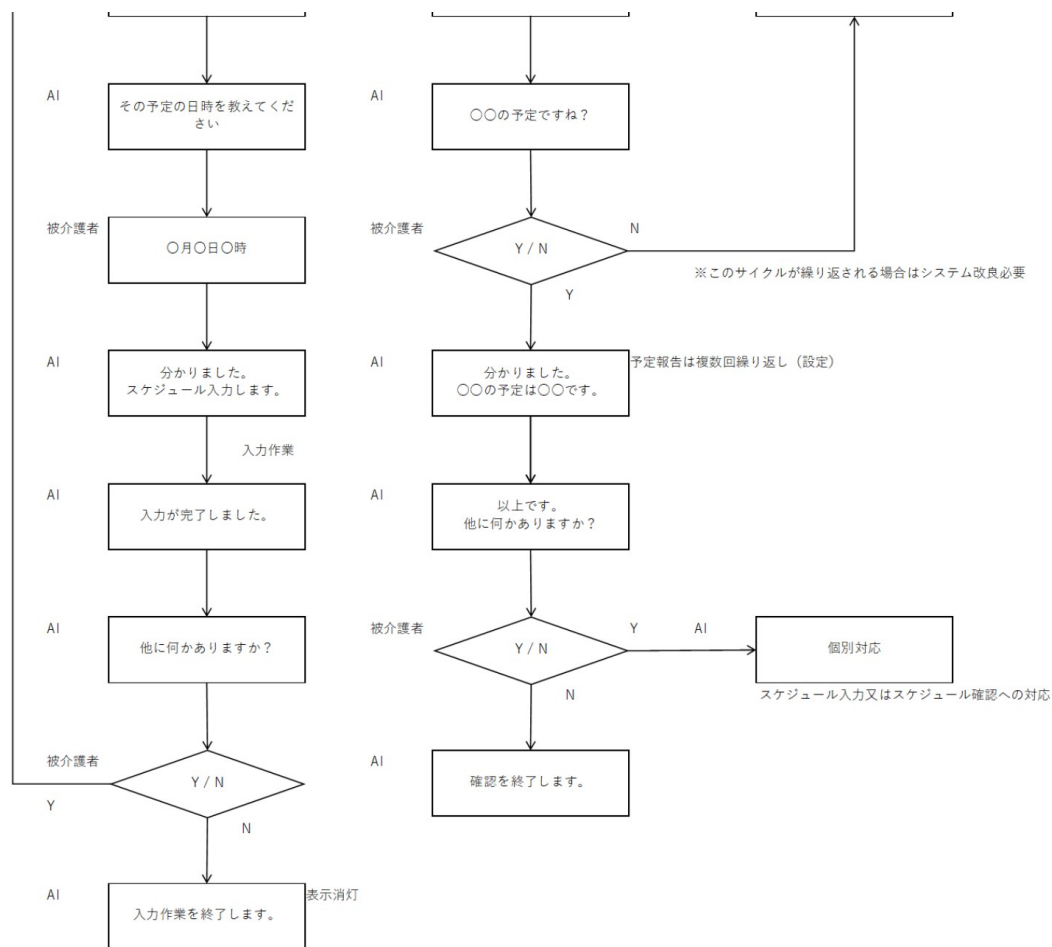




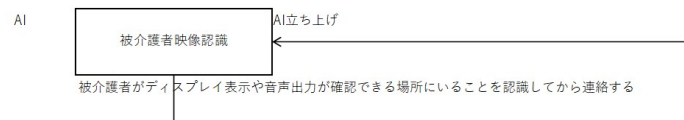


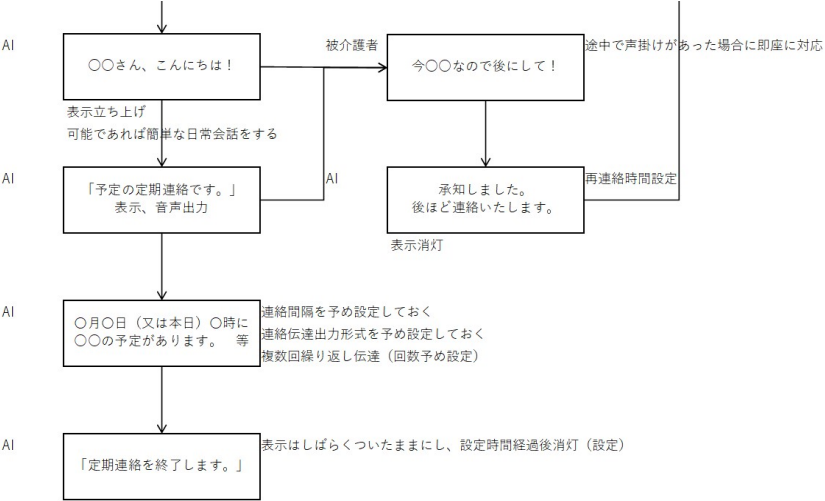
<介護者要求対応>



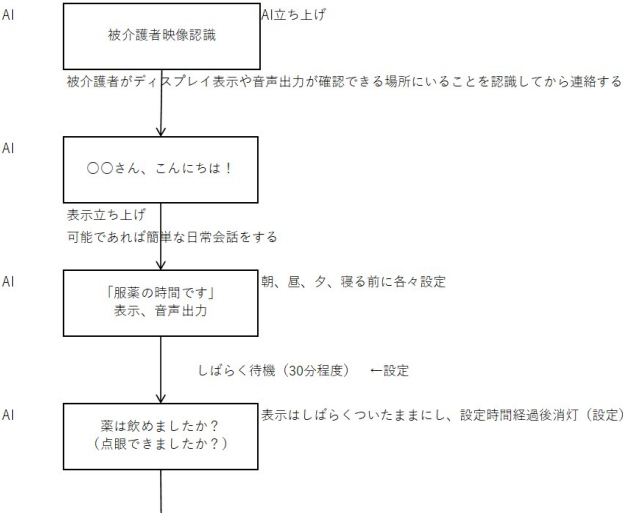


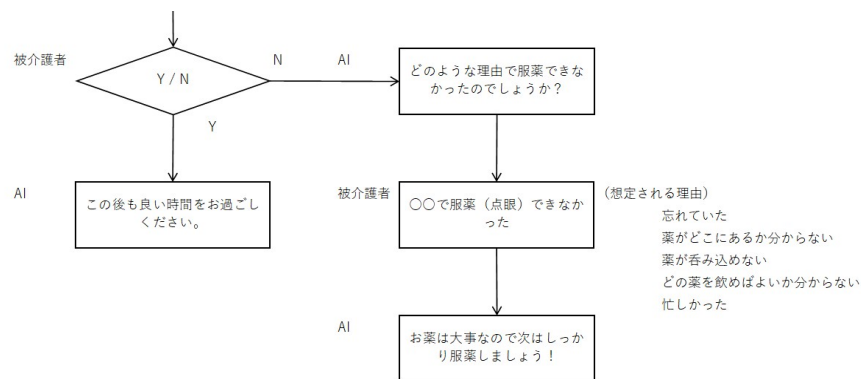
< AI定期連絡（スケジュール） >





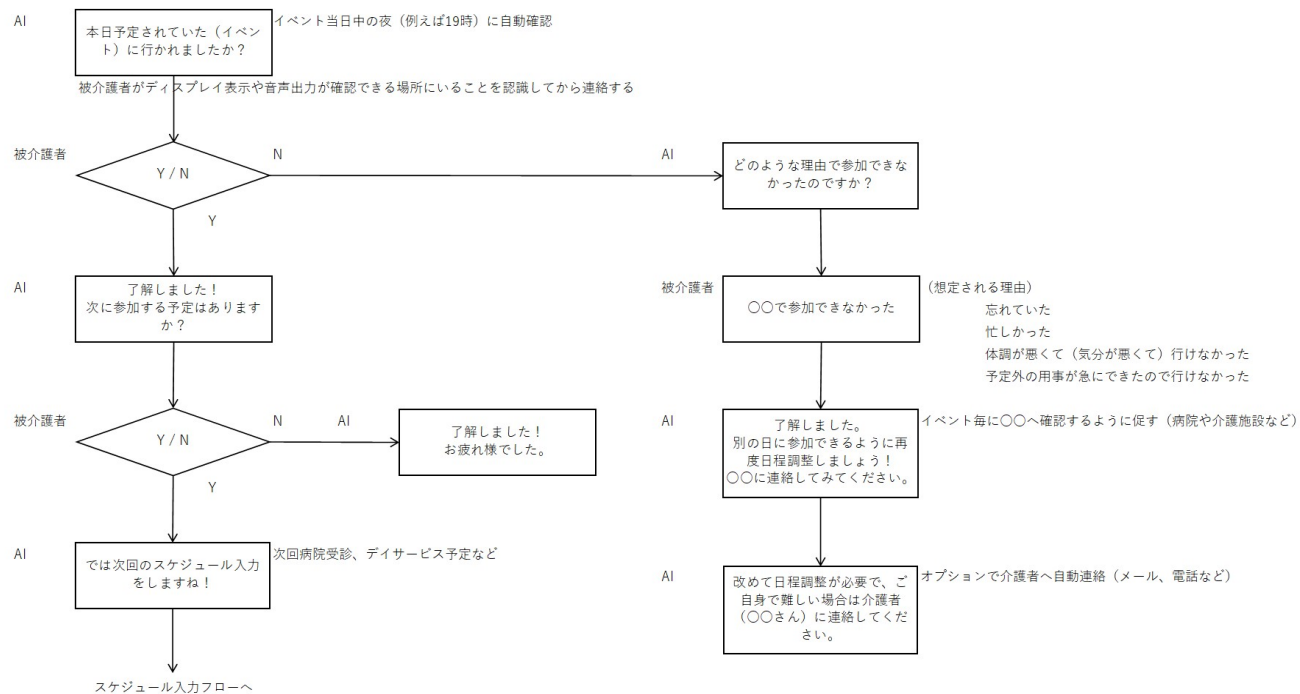
<AI定期連絡（服薬）>





<AIイベント参加確認>

※例えば、絶対に行く必要がある病院受診をしたかどうかの確認、等
※イベント参加可否等の情報はデータとして一覧化し、保存



Confidential

<メモ>

AIはコンセルジュ（執事）のような立ち位置

以上